

校内研修計画

1 学校課題

全校児童が、少人数であり保育園から小学校卒業までほとんど変動のない人間関係の中で生活しているため、複数の意見の表出の機会や互いに意見を交流する場面が少ない。そのため、だれが漢字を覚えて、計算ができるのは誰、といった固定概念が子どもたちの中に生まれている。自分の力とまわりの仲間の力を知っていると同時に、自分自身が、今以上伸びようとする意欲につながっている児童は少なく、「自分はできない」といった自己否定感をもつ児童もいる。教育の場面においては、教師の個別指導が行き届く点がメリットとしてあり、学力の定着のための指導を充実させることができる。反面、児童の自主性、創造性を育てるために「児童の活動を待つ」前に指導してしまいがちである。それが児童の「深い学び」や「創造力」を育てる機会をなくしてしまうこともある。その結果、必要以上に児童が教師を頼ったり、出番をあきらめたり、自ら思考し、意見を交流したり、創造的に活動できない傾向がみられる。学力の確実な習得のため、少人数を生かした個別指導を行うとともに、「主体的・対話的で深い学び」につなげるために未来を担う児童に望まれる「情報の活用能力」「創造力」の向上をはかることが課題である。

2 研究主題

自ら考えをもち、考えを広げ、創造的に解決させる指導の工夫
～プログラミング的思考を取り入れた授業づくりをとおして～

3 主題設定の理由

本校では、めざす子供の姿として、教育目標である「自ら学び心身共に健康な子どもの育成」を具現化するために①自ら進んで学習する子ども②自分の考えをもち表現できる子ども③相手の立場や気持ちを思いやれる子ども④ねばり強く努力する子どもを挙げている。加え、確かな学力と自立する力の育成として「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善、授業の質的向上が必要とされる。これらは現在の喫緊の課題としての「学力向上」とともに大切な内容である。

次期学習指導要領は、「超高齢化、少子化」を見据えた内容となっている。これは、現在の日本、及び未来の日本が抱える大きな問題でもある。現在の小学校における教育から未来を見据えた子供たちを視野に入れた教育を展開していく必要があるということでもある。

21世紀を生きる子供たちに必要な力は、「知識」「スキル」「人間性」としてあらわされる。それらは、「個別の知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」としてあらわされる。今後の教育の課題として、情報をやりとりする「言語能力」とともに情報を収集・整理・比較・表現・伝達するための「情報活用能力」が必要となってくる。次期学習指導要領では、これら二つを「学習の基盤となる資質・能力」として、教科横断的の習得をうたっている。

また、この情報活用能力を「世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉えて把握し、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力」と定義し、「プログラミング的思考や、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力も含まれる」としている。これらは互いに矛盾するものではなく、相補うものである。知識という情報を共有し、考えを交流、議論させ、自らの学びをより深くしていく場面を学校の教育現場において多く設定していくこととともに、基本となる知識の習得とその知識を組み合わせて創造的に問題を解決する力の育成が求められている。以上のことから学力向上の基礎となる確実な知識・技能の習得を行い、得た知識・技能を活用して、深く多角的・多面的に考え、課題を解決することが課題となる。そこで、今年度は、得た情報（知識・技能）を整理し、活用する場において、プログラミング的思考をとおして、論理的に思考し、創造的に問題を解決することを校内研究の柱とする。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 具体的内容

- ① 基本的な知識・技能の習得をはかる指導の工夫
 - a) 知識を確実に習得させる手立ての工夫
 - b) 複数の場面に汎化できる学習技能の指導

- ② 論理的思考力を伸ばす指導の工夫
 - a) プログラミング的思考を意識した授業
 - b) 知識・技能を活用する場面を仕組む授業
- ③ 創造的な問題解決力を養う指導の工夫
 - a) 得た知識・技能をつないで使おうとする場面の工夫
 - b) 意見を交流させ、新たな解決方法を見出させる指導の工夫
- ④ 家庭との連携
 - a) 家庭学習への取り組み
自主学習の質の向上
 - b) 学校便り「岩手っこ」の発行
(家庭教育・子供の発達と学習 等)

(2) 研究の方法

研究の基本は授業である。授業を行い、児童の事実を捉え、研究とする。したがって研究授業を行い、検討する。また、校内における共通財産として研修の場を設ける。

- ① 全体研究会
- ② 研究授業
- ③ 校内研修
- ④ 実践授業

5 年間研修計画

月	日	曜	回	主な内容（予定）	会の持ち方
4	3	火		研究の方向について	全体
	25	水	1	校内研究の全体計画について	全体
5	9	水		教育研究① 教協春季教研	
	16	水	2	研修①研究内容の詳細（授業者）	全体
	23	水		教育研究②	
	30	水	3	研修②研究のコンセプト	全体
6	6	水	4	研修③ブロック研究	全体・ブロック
	13	水		教育研究③	
	20	水	5	研修④個人研究	全体・個人
	27	水	6	研修⑤研究内容の整理	全体
7	11	水	7	研修⑥個人研究	全体・個人
8	6	月		教育研究④教育講演会・北中ブロック交流	
	21	火	8	全体研・教育課程還流報告	全体
	29	水		教育研究⑤ 統一授業研	
9	5	水	9	全体研・全国学テ・県学調 分析	全体・ブロック
	12	水	10	個人研究	個人
	19	水		教育研究⑥ 秋季教育研究会	
10	3	水	11	予) 指導案検討①	全体
	17	水	12	予) 個人研究	個人
	24	水	13	予) 指導案検討②	全体
	31	水	14	予) 全体研究	全体
11	7	水	15	予) 研究授業	全体
	14	水	16	予) 全体研究	全体
	21	水		ブロック交流会	
	28	水		教育研究⑦	
12	5	水	17	全体研（紀要について）	全体
1	9	水		教育研究⑧	
	16	水		ブロック交流	
	23	水	18	全体研（まとめ）	全体
2	6	水		教育研究⑨ 統一授業研	
	13	水		教育研究⑩ 東山冬季教研	
	27	水	19	紀要の読み合わせ（校正）	全体・ブロック
3	6	水	20	紀要作成（拾いこみ）	全体